

マレーシア工科大学短期派遣事前学習

マレーシアは東南アジアのマレー半島及びボルネオ島北部を領域とする立憲君主制の国家である。首都はクアラルンプールで、国の面積は約 33 万平方キロメートル、人口は 2,995 万人である。民族構成において約 7 割弱がマレー系、他中華系、インド系に分かれる。マレー語が公用語ではあるが、他に英語、中国語、インド語が話されている。主な宗教はイスラム教である。旧宗主国はイギリスであり、シンガポールとは 1965 年に分離した。マレーシアは赤道に近く、熱帯雨林気候に属する。一年を通して常夏の気候であり、その中でも弱い雨季と乾季に分かれている。また、突然集中豪雨のようなスコールが降ることがある。

1982 年、当時のマレーシア首相のマハティール首相がルックイースト政策を提唱し、日本などの東アジア域における経済モデルを手本とした。これをきっかけに両国間では頻繁な要人往来、直接貿易、技術協力や留学生交流などが活発化した。日本と韓国の企業がそれぞれ建設したペトロナスツインタワーはルックイースト政策の象徴ともいえる。対日貿易ではマレーシアは LNG などの鉱物性燃料や木材を輸出している。逆に日本からは電気機器、自動車、鉄鋼類を輸入している。近年では国をあげて IT 産業に重点を置き、KL と KL 国際空港の間の地域をマルチメディア・スーパーコリドールとして整備し、東南アジアのシリコンバレーを目指している。

マレーシアはイスラム教国であるが、多民族国家のため食文化も多種多様である。主食は米であり、伝統的な料理としてナシゴレン、サテイなどが挙げられる。ココナッツや東南アジア特有の食材、スパイスが伝統料理に多く使われている。気候的な要因もあり、あまり生の食材を用いた料理は少ない。食事には甘めのコーヒーや紅茶などが好まれる。

1967 年の ASEAN 成立からマレーシアは原加盟国として活動している。当時はアメリカなどの西側の資本主義による社会主義勢力の封じ込めのために創設された。現在では巨大な経済圏と発展した。ASEAN 全体としては中国と南沙諸島の領土問題を抱えている。マレーシア、中国を含む 6 か国が海底油田、ガス田が確認されてから領有権の所有を激化している。

マレーシアはイギリス植民地時代にすず鉱山やゴム農園の労働者として中国人、インド人を大量に移入したことが結果として複合民族社会を生み出した。中華系の民族が社会の中枢に進出し始め、先住民であるマレー人との間で経済格差が生じ始めたため、ブミプトラ政策が導入されるようになった。進学や就職などにおいてマレー人がその他の民族よりも優遇されるというものであった。この政策に猛反発した華僑の民族の多くがシンガポールに移住しシンガポールを分離・建国した。以後マレー系以外の民族からの反対運動や暴動は度々起きている。2008 年には工業地域のペナン州が縁故主義・非効率的なブミプトラ政策にとらわれないことを表明し、事実上放棄する方針を示した。